

【突発性難聴】

難聴とは、少しでも聞こえが悪くなった状態も含みます。

「少し聞こえが悪くなっている難聴」ほど見逃され、受診が遅れるケースが多くなります。

保健室だより6月号でイヤホン難聴を特集しましたが、難聴になると社会生活に様々な支障をきたすため、突発性難聴についても取り上げます。

突発性難聴は1/3が完治、1/3が改善するも難聴が残り、1/3が治らないと言われています。



【異常を感じたら即受診を！】

突発性難聴とは、突然、左右の耳の一方（ごくまれに両方）の聞こえが悪くなる疾患です。

音をうまく感じ取れない感音難聴のうち、原因がはっきりしないものの総称で、幅広い年代に起こります。

特に働き盛りの40～60歳代に多くみられます。

前日は問題なかったにもかかわらず、朝起きてテレビをつけたら音が聞こえにくい、あるいは電話の音が急に聞こえなくなるなど前触れなく突然に起こることがあります。

まったく聞こえなくなる人もいれば、高音だけが聞こえなくなる人もいます。後者では日常会話に必要な音は聞こえているため、難聴に気づくのが遅れてしまいがちです。

難聴の発生と前後して、耳が詰まった感じ、耳鳴り、めまい、吐き気などを伴うケースも多く、耳鳴りで受診したら突発性難聴だったという人もいます。

難聴やめまいが起こるのは1度だけで、メニエール病のように繰り返すことはありません。

発症後すぐに治療を受けないと、難聴や頑固な耳鳴りが残ったり聴力を失うこともあるため、早い受診と治療開始が大切です。

【原因】

音を感じ取って脳に伝える役割をしている有毛細胞が、なんらかの原因で傷つき、壊れてしまうことで起こります。

有毛細胞に血液を送っている血管の血流障害や、ウイルス感染が原因であると考えられていますが、まだ明らかになっていません。

ストレスや過労、睡眠不足などがあると起こりやすいことが知られています。

また、糖尿病が影響しているともいわれています。

【治療】

内服や点滴など、薬物療法が中心になります。ストレスの影響が考えられる時は安静にして過ごします。

十分に回復しない場合や全身投与が難しい場合は、耳の中にステロイドを注入する「ステロイド鼓室内注入療法」が行われることがあります。その効果に対する評価は定まっていません。発症後1週間以内に適切な治療法を受けることで、約40%の人は完治し、50%の人にはなんらかの改善がみられます。ただし、治療開始が遅れば遅れるほど治療効果が下がり、完治が難しくなってしまうので注意が必要です。



【突発性難聴を公表している有名人】

- ・大友康平さん(歌手)…片耳の聴力を失う
- ・浜崎あゆみさん(歌手)…片耳の聴力を失う
- ・Kinki Kids 堂本剛さん(歌手)…完治は難しい
- ・ザブングル加藤さん(お笑い芸人)…片耳の聴力を失う
- ・小室哲哉さん(音楽プロデューサー)…片耳の聴力をほぼ失う
- ・サカナクション山崎一郎さん(音楽家)…片耳の聴力をほぼ失う